



JACET通信

社団法人大学英語教育学会

July 2011

The Japan Association of College English Teachers

No.179

目次

巻頭言（神保尚武）	1頁	支部だより	10頁
他学会からの寄稿（日本語教育学会）	2頁	創立50周年記念寄付事業報告	17頁
特色ある大学英語教育プログラム（関西大学）	4頁	大学英語教育学会創立50周年記念 国際大会実行委員会より	18頁
公募記事コーナー（Harada & Brock）	5頁	事務局だより	18頁
本部だより	8頁		

[巻頭言]

大震災を乗り越えよう

社団法人大学英語教育学会会長 神保 尚武
早稲田大学

4月に「新年度のご挨拶」を申し上げましたが、その繰り返しになりますが、新たに加わった要素もありますのでご報告をさせていただきます。

1 被災された会員に対するお見舞いとお願い

3月11日に発生しました東日本大地震と大津波、更に原子力発電所の事故による災害はなお収束せず、不安な状況にあります。まずは、亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

会員の皆様にはすでに地域や勤務先を通じてさまざまご援助をしてくださっているかと存じます。学会としましては、微力ではありますが、被災された会員の平成23年度の会費を免除する、

第50回記念国際大会および各支部大会で義援金を募集するなど、被災された会員に対する援助策を実施することとなりました。理事会と社員総会で成案が得られましたので、皆様にご報告いたします。よろしくご協力ください。

わが民族の回復力とともに刷新力を信じて前進したいと思います。なお、英文でのメッセージをウェブサイトのにせてありますので、ご覧ください。

2 創立50周年寄付事業について

社団法人大学英語教育学会の創立50周年寄付事業にご協力を賜りましてありがとうございました。会員の皆様の格別なご厚意を賜りまして、目標額の400万円を超える寄付金を集めることがで

きました。5月10日現在で、ご寄付の総額は4,425,000円となりました。詳細は寄付事業に関する報告をご覧ください。寄付をいただきましたご芳名一覧を掲載いたしました。会長としてあらためて御礼を申し上げる次第です。

このご寄付は事業計画通り、50周年記念大系13巻の刊行、第50回記念国際大会の開催、50周年記念誌の作成のために使わせていただきます。

3 春季セミナーの延期と夏季セミナーの中止

今回の大震災に伴い、3月27日(日)に予定されていた春季セミナーを7月17日(日)に延期いたしました。夏季セミナーは、招聘講師予定のおふたりが日本に来ることが不可能となったことと夏に予定されている計画停電が実施される可能性があるなどの理由で中止といたしました。別の講師、別の場所での開催の可能性についても検討いたしました。このお二人を中心としたプログラムを組んでおりましたので、今回の夏季セミナーは中止とし、また改めて来年度に開催できるように準備していきたいと考えております。楽しみにしておられた会員の皆様が多いことも重々承知の上の決断でございます。ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

4 50周年記念「英語教育学大系」全13巻の刊行、第50回記念国際大会の開催、50周年記念誌の作成

2012年にJACET創立50周年を迎えるにあたり、取り組んでまいりました3つの事業の中間報告をさせていただきます。

(1) 50周年記念刊行について

記念刊行は予定通り進んでおり、全13巻のうちすでに11巻が刊行され、残すところあと2巻の刊行を待つだけになりました。これらの巻もすでに大修館書店に原稿が提出され、刊行に向けて準備をしているところでございます。

(2) 第50回記念国際大会について

4月にお送りしました「2ndサーキュラー」、「ポスター」、「登録方法」をご覧ください。第50回記念国際大会は、九州・沖縄支部の実行委員会を中心とした組織委員会の指揮のもと、順調に準備が進んでおります。夏の福岡の皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

(3) 50周年記念誌の作成について

50周年記念誌は、皆様のお手元に2012年度の早いうちにお届けすることを目指し、特別委員会が作成作業を進めております。

5 JACETの「一般社団」化

6月19日(日)に開催された「2011年度第1回社員総会」で、JACETを「一般社団」にする方針が決定されました。第50回記念国際大会の時に開催される予定の「会員総会」でその決定についてご報告いたします。

以上です。この震災を乗り越え、本学会の使命を果たすべく、さらに強力に学会活動を推進していく所存でございます。今後ともJACETの活動にご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

～他学会からの寄稿～

「日本語教育学会」の紹介

常任理事 西郡仁朗

日本語教育学会は、1962年に「外国人のための日本語教育学会」として創立され、1977年に外務・文部両省の許可により社団法人となり、名称を「日本語教育学会」(The Society for Teaching Japanese as a Foreign Language)としました。現在の会員数は4,300人余りとなっています。学会の主な目的は、日本語を第一言語としない人々に対する日本語教育の研究促進と振興を図り、それによって日本の学術の発展と諸外国との相互理解や学術と文化の交流に寄与することです。近年、日本在住の外国人は増加し続け、また海外では日本の文化や経済・科学技術への関心が高まっています。学術的な追究だけでなく、社会の中での学会の存在意義を自覚し、それを果たすべく活動を行っています。

学会誌は『日本語教育』で年3回発行されています。『日本語教育』は「研究論文」「調査報告」「実践報告」「研究ノート」から構成されていますが、

理論や実証的研究のみならず、実践的な日本語教育活動をもととしたものや学際的な内容が多いのが特徴といえるでしょう。最近学会誌で特集された内容を紹介します

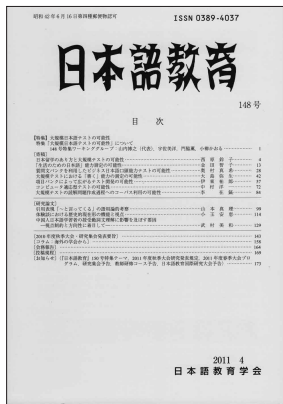
「大規模日本語テストの可能性」

「心理学の観点から見た第二言語としての日本語教育」

「今、日本語教師に求められるもの-教師教育の課題と展望-」

「日本語音声の教育と研究の新しい流れ」

「作文教育のための語彙研究」など多岐にわたっています。



また、学会誌以外にも『新版 日本語教育事典』(大修館書店)などの事典類や各種教材、参考資料、大会や研究会の予稿集などを刊行しています。

学会員が参加している大きな活動としては、大会、研究集会、テーマ研究会、教師研修会などがあります。

大会は、学会員の研究成果と意見交換の場で、年2回開催され、春季大会は首都圏、秋季大会はそれ以外の地域で行われています。

研究集会は学会員のさまざまなニーズに対応すべく開催されているもので、会員の研究発表を中心に、会員研修、教育実践研究報告、講演、ポスターセッション、ディスカッションなどの多様な形態で全国各地で年間約10回開催されています。この一環として毎年夏期に東京で「日本語教育実践研究フォーラム」を実施しており、教育実践の紹介や意見交換、実践と研究との関わりの議論などを行っています。これらの集会は、一般の方々にも公開されています。

テーマ研究会は学会員が中心となって自主的に

組織されている研究グループのことで、現在以下のテーマ研究会があります。

「アカデミック・ジャパニーズ(註1)・グループ」(註1:大学・大学院などの高等教育機関での学習・研究に必要な日本語力)

「多文化共生社会における日本語教育研究会」

「日本語音声コミュニケーション教育研究会」

「JSL(註2)漢字学習研究会」(註2:Japanese as a Second Language)

「ビジネス日本語研究会」

「中国語話者のための日本語教育研究会」

教師研修会は国内国外で日本語教師を志す人々、現在日本語教育に携わっている人々を対象に、教授技能の向上や日本語教育に関連する諸分野の研修を実施しています。年数回の短期集中研修と、毎年8月には集中合宿研修も行っています。

また、上記のほかに、社会的要請の高い課題への対応としてワーキンググループ(WG)が置かれることがあります。現在は日本と各国のEPA(経済連携協定)により受け入れられている外国人看護師・介護福祉士候補者の日本語教育に関わる「看護と介護の日本語教育WG」と、日本在住の外国の人々などへの日本語教育や、日本語教育政策全体について基本的な考え方や長期的なビジョンを検討する「日本語教育振興法法制化WG」があります。

日本語教育の世界も、近年グローバル化が大きく進展しています。世界各国・地域にはそれぞれの学会や教師会ができてきており、9つの国・地域の学協会が参加して「日本語教育グローバルネット」が組織され、研究・教育の交流推進を図っています。その活動の一つとして「日本語教育国際研究大会」が開催されています。これまで、日本、米国、韓国、中国、オーストラリア、台湾で実施され、2011年の中国天津大会で10回目となります。また、2012年には名古屋で国際研究大会が行われる予定です。

2012年、日本語教育学会は創立50周年を迎えます。大会や国際大会などで、この50年を振り返り、これからの日本語教育について考える企画が進められています。

これまで述べて来たように、日本語教育学会ではさまざまな活動が活発に行われています。外国語としての日本語やその習得過程、教授法のみな

らず、実践的な探求や周辺分野との学際的な教育研究活動を行っていることが大きな特徴といえるでしょう。外国語・第二言語の教育研究として、また、より一般的な言語の教授・学習の理論と実践の上で、英語教育との関連が深いのは言うまでもありません。これを機会に大学英語教育学会との交流や連携をさらに深めることができたらと願っています。

特色ある 大学英語教育プログラム

関西大学
山本英一

理工系 ESP 教育の実践 —— ESP 教育の制度化

それぞれの大学の事情もあるだろうが、1991年の大学設置基準の大綱化後にも、専門教育と教養教育の垣根は依然として存在していて、その場合、大半の学生は、全学共通教育カリキュラムの中でしか英語教育を受ける機会がないために、英語と専門の関連性を意識する場がない。「英語は教養、専門は専門」という意識に陥りやすい。しかし、本来、言語とコンテンツは表裏一体のはずで、教育内容の中に両者が混在しても不思議ではない。むしろ、混在している方が、情報そのものの実態を忠実に反映しているし、学生にとっても両者の関連性が意識しやすいはずである。

そのような考え方に基づき、2007年に関西大学の工学部再編の中で誕生した環境都市工学部では、1年次から専門科目の中に「ESP科目」指定を始めた。専門分野の講義と平行してESP教育を実施することをカリキュラムの中に明記したのである。本稿では、制度化された取組の一つとして、教員が連携してESP教育を展開する一つの試みを紹介してみたい。

e-Learningによる教員連携—ESP教育の一手法として

専門科目の中で言語とコンテンツを並存・融合

させるには、専門教員と英語教員の連携が必要である。ここでいう連携とは、専門が主で英語が従という関係ではない。コンテンツについては専門の教員が教えるが、先に述べた表裏一体のもう一つの面、すなわち言語面について英語の教員が担当する、いわば互いに主との関係である。専門教員は、その分野のエキスパートではあっても、言語のエキスパートではない。経験上、与えられた文脈ではAという表現を使うことが直観的にはわかっている、「なぜAを使うのか？」という問いには答えられない。一方、英語教員は言語のプロである。ESP教育で問題となるジャンルを特定し、文体の相違や、語彙の使用法や文法の特徴を同定すること、すなわち言語使用者の直観を体系的に説明することを生業としている。コンテンツの職人（専門教員）とレトリックの職人（英語教員）が相互に不可分の存在であることを認め合って教育を推進していこう、というのが本取組の出発点でもあった。しかし、過密なカリキュラムの教育を担当する両者が文字通り一緒に作業することは不可能に近い。そこで、正課授業に専門教育を、そして課外学習（復習）に英語教育を割り当て、両者の接点をe-Learningに求めたのが今回の取組みである。

関西大学では、開講科目すべてを授業支援型e-LearningシステムCEAS(Web-based Coordinated Education Activation System)に登録しており、ESP科目を始動した2008年の春学期は、「コンピュータ科学」(1年次)と「プログラミング技法」(2年次)でESP教育連携を展開した。専門教員、英語教員、それに英語教育学を専攻する大学院博士後期課程の院生T.A.の3名がチームを組み、課題をCEAS上にアップロードする。したがって、対面授業ではPC教室は用いるが、専門教員がコンピュータやプログラミングに特化した内容を講義する(写真参照)。課題については、専門教員が語彙問題を、英語教員とT.A.が和文英訳を、それぞれ授業の内容に基づいて出題する。オンライン上で提出された解答は、英語チーム(英語教員とT.A.)が採点し、(メール等のやり取りを通して)誤りの分析を行い、講評スライドを作成する。これが専門教員にフィードバックされ、次の授業の冒頭で英語の課題についてのコメントが専門教員から学生に伝えられる。対面授業(専門)→e-Learning(英語)→対面授業(専門)

……のサイクルが15回（1 Semester）繰り返されるのである（表1を参照）。



曜日	活動内容	担当者
水曜日	講義	専門教員
木曜日	ESP課題 CEASにアップ *	専門教員 英語教員
土曜日	課題提出・締切 *	
土曜日 ～(翌週の) 火曜日	- 模範英文解答作り * - 解答の採点と分析 * - 解説・講評 (pptスライド) 作成	英語教員 英語T.A.
水曜日	講評スライドによる解説 次の講義	専門教員

(*部分がICTを活用したESP教育の部分)

表1 ESP教育協働作業サイクル

コラボレーションによるESP教育から 見えてくるもの

たとえば、「プログラミング技法」のESP課題では、プログラミングのマニュアルに現れる指示文の中から、毎回の授業のポイントになる指示文を英訳させた（例：「while文ではブロック内の処理の前に条件が判断されますが…」）。いきなり学生に高度な要求をしているように見えるかも知れないが、注意深く見れば、使用すべき語彙は彼らがもっているテキストでも見つけられるし、講評スライドを通じて推奨しているチュートリアル（オンライン版）を駆使すれば、レトリックに関するヒントは山のようにある。繰り返し課題に組み、講評を通じて自省を深めることによって、

自律的に問題を解決しながら英語学習に臨む姿勢を学生に養ってもらうことも、英語教員の期待するところであった。

ESP授業実施後のアンケートの中から、学生からの興味深いコメントを2つだけ紹介しておく。ひとつは、ESP課題に取り組むことを通じて、「専門の授業でも英語を学ばなければならない理由がわかった」ということ。もう一つは、「言語面はもとより、（専門領域の）コンテンツの理解も深まった」ということ。いずれも、言語とコンテンツの関係を認識してくれたコメントと思いたい。

なお、取組の実施にあたっては、コラボレーションのサイクルをより円滑に回すための仕組み作り、あるいはより適切なESP課題をどう案出するかなど、今後考えなければならない課題も多々あることを付言しておきたい。とりわけ、英語教員とペアを組むT.A.（院生）の技量は絶対に見逃せない。ESP教育を理解し、ICTにも通曉し、英語の語法もきちんと考えられる人。専門分野が細分化しがちな中、ESP教育の実践を通じて、次世代を担う英語教員の育成に欠かせない3つの視点（ESP、ICT、語法）が、図らずも浮き彫りになっている点が示唆的である。

公募記事コーナー

Teaching Large Classes of Unresponsive University Students

Jun Harada
(Rikkyo University)
Robert Brock
(Tokyo Metropolitan University)

Abstract

We describe classroom management strategies to achieve lesson aims for large classes of low-level, unenthusiastic students taking compulsory university English courses. We emphasize socialization and negotiation to adjust course content to student interests and emotional states. We divide lesson tasks and activities into small steps, give explanations

bilingually, and motivate student achievement through teacher attention and positive feedback to improve their self-esteem.

Introduction

Social lives are sacrificed for three years to pass entrance exams (Brown and Yamashita, 1995); six years of English in school and *juku* creates students who may show little interest in English. University is a social release for most, while some are burned out from years of "examination hell."

Required classes may allow only 4 or 5 absences per semester; then students fail and must repeat. Students have few expectations so programs taught to passive, unmotivated students make it a struggle to achieve lesson objectives in a leaden atmosphere.

The authors have developed strategies to find common goals with students through negotiation to increase their motivation. We prioritize student needs and goals by including their interests in lesson planning; during class we provide task-based instruction divided into achievable steps. Feedback at each step increases student self-esteem.

Motivation

Unmotivated students show characteristic behaviors. They may not respond to questions, follow instructions, or ask for explanations. They may chat with friends in Japanese, and fail to complete activities within their abilities. These conform to Brophy's (1996) definition of passive-aggression; in a whole class like this, they do not see their behavior as a problem. Ryan's (1995) students thought sleeping in class was not bad behavior, nor did they expect him to react.

Teachers can negotiate mutual goals to focus on solutions and remove antagonistic "them and us" attitudes (Fisher & Ury 1991). Scharle and Szabo (2000) point out that learner autonomy develops when the learner is an equal partner in goal setting. It is easy to reach agreement on broad benefits such as passing the course and

interacting with every student. Questionnaires to elicit students' interests reveal more specific skills they want to acquire, which are then used to create more satisfying lessons.

Student Self-Esteem

Teachers can take advantage of student resistance: Students only interested in dating practice expressions for dating; students avoiding homework learn strategies to finish it quickly. However, these narrow interests can disguise a lack of self-esteem, which is a serious issue, though frequently ignored (Dornyei, 2005). It may result from focusing on grammar, rather than living language (Izumi, 2009). Students worried by basic terms such "subject, verb and object" to the point of physical malaise (Harada 2009) need self-esteem restored by focusing on communication, and activities which include praise. Grammar follows when positive feeling is established.

Small steps

Self esteem is maintained by breaking activities into small steps. For example, a lesson using adverbs of sequence (*first, then, next...*) breaks into 4 stages for a high level class; but extra steps (shown by +) are included for underachievers, who need more encouragement, praise or individual instruction. Teachers check that each student has completed each step.

1. Choose something you can do that isn't easy + a trivial example is okay.
2. Write it down and + add *first*, etc.
3. Explain it to your partner + partner gives feedback to show understanding
4. Write down what your partner told you + include *first*, etc.
5. Change roles.
6. Tell another student what your partner told you.

Additional strategies

Finishing incomplete tasks for homework

reintegrates super-underachievers, and overcomes absence or lack of attention which impede passing the course.

English-only instruction (Ford, 2009) is sometimes effective, but underachievers cannot develop proficiency without Japanese support. Teachers should give instructions bilingually, repeat as necessary, and re-use the instructions in later lessons. In Brock's writing class for 40 high-level students given English-only instruction, only 62 percent reported that the instructions were clear in a post-course questionnaire. In a low-level class of the same size given bilingual instruction, 86 percent reported clear instructions. This suggests that bilingual instruction helps clarify tasks at all levels.

Teachers can allow students to speak Japanese then help translate. "Discovered" expressions are used in class, a Community Language Learning technique (Larsen-Freeman, 1986). Self-expression also leads to occasional communication breakdown learning experiences (Granena, 2006).

Conclusion

Large classes of apparently unmotivated students require the teacher to adapt quickly to change the atmosphere and achieve lesson aims. Student motivation is improved by establishing mutual goals, while confidence and self-esteem improve through making tasks smaller and more easily achievable, providing bilingual explanations, and chances to make up unfinished work.

Under their inert surface, unresponsive students have a willingness to learn and can be motivated to do so. Teachers can pique interest and provide motivation and energy to help students reach their potential. By interacting without fear of rejection, teachers can become sensitive to student issues, become able to help students find the real world of learning.

References

- Brophy, J. (1996). *Teaching problem students*. New York: The Guilford Press.
- Brown, J. D. & Yamashita, S. O. (1995). English language entrance examinations at Japanese universities: 1993 and 1994. In Brown, J. D. and Yamashita, S. O. (Eds.) *Language testing in Japan* (pp. 86–100). Tokyo: Japan Association for Language Teaching.
- Dornyei, Z. (2005). *The psychology of the language learner: Individual differences in second language acquisition*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- Fisher, R. & Ury, W. (1991). *Getting to yes*. (2nd ed.) New York: Penguin Books USA Inc.
- Ford, K. (2009). Principles and practices of L1/L2 use in the Japanese university EFL classroom. *JALT Journal*, 31 (1), 63–80.
- Granena, G. (2006). Age, proficiency level and interactional skills: evidence from breakdowns in production. In C. Munoz (Ed.) *Age and the rate of foreign language learning* (pp.183–207). Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- Harada J. (2009). Let's delve into the minds of "bad" students: Alternative TESOL. JALT National Conference, November 21, 2009.
- Izumi, S. (2009). "Current trends in the English-as-a second /foreign language teaching in the world." 2009年11月17日東京私学研究所文系教科研究会講演会
- Larsen-Freeman, D. (1986). *Techniques and principles in language teaching*. New York: Oxford University Press.
- Ryan, S. M. (1995). Misbehaviour in the university classroom? *The Language Teacher*, 19 (11), 13–16.
- Scharle, A. & Szabo, A. (2000). *Learner autonomy: A guide to learner responsibility*. Cambridge, U.K.: Cambridge University Press.

本部だより

代表幹事 尾関直子 (明治大学)

今回の東日本大震災で被害にお遭いになられた会員の皆様に心からお見舞い申し上げます。本部としても、できることはしていきたいと考えておりますので、何かご意見などございましたら、お知らせください。

本部からは、2011年度役員についてと2011年度の主な行事予定(7月以降)についてお知らせいたします。

●2011年度役員

【理事】 神保尚武(会長)、岡田伸夫(副会長・専務理事)、寺内一(副会長、常務理事)、高橋恒一(外部理事)、山口光(外部理事)、高井収(北海道支部長)、小嶋英夫(東北支部長)、中野美知子(関東支部長)、小宮富子(中部支部長)、野口ジュディー津多江(関西支部長)、松岡博信(中国・四国支部長)、山内ひさ子(九州・沖縄支部長)、浅川和也(財務)、木村松雄(紀要)、芝垣茂(研究会)、山岸信義(全国大会)、大森裕實(中部)、原田園子(関西)、南出康世(関西)、尾関直子(広報・通信)、笹島茂(セミナー)

【監事】 椿忠男、矢田裕士

【副支部長】 新井良夫(北海道)、高橋潔(東北)、芝垣茂(関東)、木村松雄(関東)、大森裕實(中部)、小栗裕子(関西)、岩井千秋(中国・四国)、樋口晶彦(九州・沖縄)

【本部幹事】 尾関直子(代表幹事、総務委員長)、渡辺敦子(副代表幹事)、湯澤伸夫(副代表幹事)、浅川和也(財務委員長)、馬場千秋(全国大会運営委員長)、大須賀直子(広報・通信委員長)、下山幸成(ネットワーク管理委員長)、河野円(紀要委員長)、河内山晶子(セミナー事業委員長)、相川真佐夫(国際交流委員長)、山崎敦子(研究会担当委員長)、高橋潔(JACET賞選考委員長)

【支部幹事】 [北海道支部] 河合靖(事務局幹事)、横山吉樹(幹事)、[東北支部] 富田かおる(事務局幹事)、倉内早苗(幹事)、[関東支部] 上田倫史(事務局幹事)、下山幸成、鳥飼慎一郎(幹事)、[中部支部] 下内充(事務局幹事)、榎木蘭鉄也(幹事)、[関西支部] 西納春雄(事務局幹事)、平井愛、生馬裕子、金丸敏幸、東郷多津、植松茂男(幹事)、

[中国・四国支部] 平本哲嗣(事務局幹事)、高橋俊章、三宅美鈴(幹事)、[九州・沖縄支部] 上村俊彦(事務局幹事)、古村由美子、Pennington, Wakako(幹事)

【社員】 [北海道支部] 8名、[東北支部] 7名、[関東支部] 45名、[中部支部] 15名、[関西支部] 26名、[中国・四国支部] 10名、[九州・沖縄支部] 11名、[本部] 10名 計 132名

●2011年度主な行事日程(7月以降)

7月

- 1日(金) 『JACET通信』179号発行(日本語版)
- 1日(金) - 2日(土) KATE 2011 International Conference(ソウル・大韓民国)
- 2日(土) 九州・沖縄支部春季学術講演会(西南学院大学) / 支部総会
- 2日(土) 北海道支部大会(北海道大学) / 支部総会
- 16日(土) 運営会議
- 17日(日) JACET英語教育セミナー(早稲田大学)
- (未定) 関東支部月例研究会
- 26日(木) 『関西支部ニューズレター』58号発行

8月

- (未定) ICT調査研究特別委員会中国・四国支部講演会
- (未定) 授業学研究特別委員会全国代表者会議
- 13日(土) 運営会議
- (未定) AILA EBIC Business Meeting(北京)
- 30日(火) 支部長会議・臨時理事会(西南学院大学)(主な議題:2012年度事業計画関連審議)
- 30日(火) 全国委員会
- 8月31日(水) - 9月2日(金) 第50回(2011) JACET全国大会(西南学院大学)

9月

- 2日(金) 会員総会 / JACET賞表彰
- 17日(土) 運営会議
- 18日(日) ICT調査研究特別委員会講演会(早稲田大学)

10月

- 1日(土) 『JACET通信』180号(英語Web版)発行
- 1日(土) 関西支部第2回講演会(神戸国際会館(仮))
- 9日(土)

1日(土) 中国・四国支部第1ブロック(広島・山口・島根)研究会(広島工業大学)
(未定) 2011 PEKETA International Conference (Busan、大韓民国)
15日(土) 運営会議
15日(土) 中国・四国支部第2ブロック(岡山・鳥取)研究会(香川大学)
(未定) 関東支部月例研究会
(未定) 中部支部講演会(中京大学)
24日(月) 『関西支部ニューズレター』59号発行
31日(月) JACET Journal 53号刊行

11月

(未定) 北海道支部研究会(藤女子大学、北海道大学(予定))
1日(火) 『JACET通信』181号(大会特集号(日本語版))発行
5日(土) 中国・四国支部第3ブロック(四国)研究会(松山大学)
11日(金) - 13日(日) The 20th International Symposium and Book Fair on English Teaching (ETA-ROC大会)(台北市、台湾)

12日(土) (予定)九州・沖縄支部秋季学術講演会(未定)
19日(土) 運営会議
20日(日) 『中国・四国支部ニューズレター』7号発行
27日(日) 関西支部秋季支部大会(40周年記念大会)(武庫川女子大学(中央キャンパス))

12月

会長選挙・支部長選挙・社員選挙
(未定) 58th TEFLIN International Conference (インドネシア)
1日(木) 『JACET通信』182号(日本語版)発行
1日(木) 『会員名簿2011年度』発行
1日(木) 『九州・沖縄支部紀要』16号刊行
4日(日) 東北支部大会(仙台市民会館(予定))
10日(土) 中部支部臨時総会/定例研究会(中京大学)
(未定) 2011 ALAK Conference (大韓民国)
(未定) 『中部支部紀要』9号刊行
17日(土) 中国・四国支部 地区大学間連携イベント: 大学生 Oral Presentation & Perform-

広 告

mance (OPP) 研究会
17日(土) 運営会議
関東支部総会(早稲田大学)
18日(日) 臨時理事会(第2回)
(未定) 『中部支部ニューズレター』27号発行

1月

(未定) 北海道支部研究会(藤女子大学、北海道大学(予定))
(未定) 32nd Thai TESOL International Conference(タイ)

21日(土) 運営会議
30日(日) 『北海道支部紀要』9号刊行

2月

(未定) 中部支部定例研究会(未定)
12日(土) 予定 関西支部共催セミナー: 関西英語教育学会(関西国際大学)
18日(土) 運営会議

3月

1日(木) 『JACET通信』183号(英語Web版)発行
授業学特別委員会事例集刊行
3日(土) 関西支部第3回講演会(関西学院大学大阪梅田キャンパス(仮))
17日(土) 運営会議
24日(土) 第2回定例理事会(早稲田大学)
24日(土) 第2回定例社員総会(早稲田大学)
(未定) 関東支部月例研究会
25日(土) 第21回春季英語教育セミナー(早稲田大学)
25日(土) 『JACET関東支部学会誌』刊行
31日(土) 『紀要』54号刊行
31日(土) 『TOHOKU TEFL』VOL. 4刊行
31日(土) 『ICT調査研究特別委員会活動報告書』刊行
31日(土) 『北海道支部ニューズレター』25号発行
31日(土) 『東北支部通信』38号発行
31日(土) 『関西支部紀要』13号刊行
31日(土) 『中国・四国支部研究紀要』9号刊行
31日(土) 文科省へ2012年度事業計画提出締切

支部だより

〈九州・沖縄支部〉

第15回ESP研究集会

日時: 11月6日(土) 13:00~17:00
会場: 熊本大学大学教育機能開発総合研究センター

2010年度第4回九州・沖縄支部役員会

日時: 11月13日(土) 13:00~15:00
会場: 西南学院大学学術研究所第一会議室

2010年度秋季学術講演会

日時: 11月13日(土) 15:30~17:30
会場: 西南学院大学大学院大ホール
講師: Dr. Averil Coxhead (Victoria University, Wellington, NZ)
演題: Working with Collocations, Phrases and Word Lists: Connecting Multi-word Units, English Language Classrooms, and the Academic Word List

第103回東アジア英語教育研究会

日時: 11月20日(土) 15:30~17:30
会場: 西南学院大学1号館205教室
題目: TOEIC(IP)5カ年の検証ーカリキュラム・ディベロップメントの観点からー
発表者: 田上優子(福岡女子大)

第104回東アジア英語教育研究会

日時: 12月18日(土) 15:30~17:30
会場: 西南学院大学1号館205教室
題目: 学術目的の英語教育研究: 課題と展望ー語彙とライティングを中心としてー
発表者: 田地野彰(京都大)、金丸敏幸(京都大)、マスワナ紗矢子(京都大・大学院博士課程)、北田優方(京都大・大学院修士課程)、川西慧(京都大・大学院修士課程)、日高佑郁(京都大・大学院修士課程)

2010年度第5回九州・沖縄支部役員会

日時: 1月8日(土) 13:00~15:00
会場: 西南学院大学学術研究所第一会議室

第105回東アジア英語教育研究会

日時：1月22日（土）15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

題目1：大学英語教育の目的論に関する一考察—

『JACET通信』誌上討論開催の弁を中心に—

発表者1：水島孝司（南九州短大）

題目2：短期海外研修の事前指導に関する課題—

南九州短期大学の国外研修を事例として—

発表者2：横堀仁志（南九州短大）

第106回東アジア英語教育研究会

日時：2月19日（土）15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

題目：中国における大学英語教育政策（English Language Education Policy in Chinese Universities）

発表者：原隆幸（明海大）

第16回ESP研究集会

日時：3月14日（月）13:00～17:00

会場：長崎県立大学シーボルト校

2010年度第6回九州・沖縄支部役員会

日時：3月19日（土）13:00～15:00

会場：西南学院大学学術研究所第一会議室

第107回東アジア英語教育研究会

日時：3月19日（土）15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

題目：The ABCs of Teaching English in Asia

発表者：Jan Stewart（筑紫女学園大）

2011年度第1回九州・沖縄支部役員会・2011年度第1回JACET50周年記念国際大会地元実行委員会

日時：4月23日（土）15:00～17:00

会場：西南学院大学学術研究所第一会議室

2011年度第2回九州・沖縄支部役員会・2011年度第2回JACET50周年記念国際大会地元実行委員会

日時：5月28日（土）14:00～17:00

会場：西南学院大学学術研究所大会議室

2011年度第1回紀要編集委員会（予定）

日時：6月11日（土）13:00～15:00

会場：西南学院大学学術研究所大会議室

2011年度九州・沖縄支部総会（予定）

日時：7月2日（土）14:00～15:00

会場：西南学院大学2号館8階大会議室

2011年度春季学術講演会（予定）

日時：7月2日（土）15:30～17:00

会場：西南学院大学2号館8階大会議室

講師：Dr. Michael Byram（University of Durham, UK）

演題：The Common (European) Framework of Reference—Teaching Foreign Languages, Plurilingualism and Intercultural Competence

（伊藤健一・北九州市立大学）

〈中国・四国支部〉

(1) 平成23年度役員会

日時：2011年6月4日（土）10:00～12:00

場所：山口大学教育学部

(2) 平成23年度中国四国支部大会

日時：2011年6月4日（土）

場所：山口大学教育学部

1. 総会 13:05～13:30

2. 研究発表 13:30～15:00

第1室

発表1：「リスニング力の構成要素について」

松岡博信（安田女子大）、榎田一路（広島大）、

橘野実子（安田女子短大）

発表2：“Fairer Assessment: How to Start Making a Speaking Test”, Judith Runnels（Hiroshima Bunkyo Women’s Univ.）

発表3：“Vocabulary Test for Dummies: Starting from Scratch”, Gary Cook and Erica Sponberg（Hiroshima Bunkyo Women’s Univ.）

第2室

発表1：“Semiotic Functions of English in Japanese College Students’ Daily Life”、尊田望（山口大・非）

発表2：「ロアルド・ダールの短編“The Hitchhiker”における言語表現とユーモアについて」田淵博文（就実大・就実短大）

3. 支部研究会報告：15:00～15:30
 “2010 Oral Presentation and Performance”、岩井千秋（広島市立大）
4. シンポジウム：15:40～17:40
 「英語の授業を英語で行う実践例」シンポジスト：榎葉みつ子（広島大）田辺尚子（安田女子大）梅地哲郎（山口県立華陵高）
 （鳥越秀知・香川高専）

場所： 関西学院大学大阪梅田キャンパス（大阪）
 講演タイトル：「東京大学教養学部における理系英語プログラムの試み」（トム・ガリー：東京大）、『学術研究に資する英語教育』を目指した京都大学の取り組み」（田地野彰：京都大）（講師招聘講演会）
 参加者： 50名

〈関西支部〉

I. 2010年度の活動報告

1. 支部大会、支部講演会等の開催

(1) 支部大会の開催

・春季大会

日時： 2010年6月19日
 場所： 同志社女子大学（京都）
 大会テーマ：「英語教育の今後の方向性を探る」
 参加者： 158名
 内容： コロキアム、研究発表、実践報告、講演等11件の発表

・秋季大会

日時： 2010年11月27日
 場所： 関西学院大学（兵庫）
 大会テーマ：「今、求められる大学英語教育における授業の方向性」
 参加者： 114名
 内容： ワークショップ、研究発表、実践報告、シンポジウム等15件の発表

(2) 支部講演会の開催

・第1回講演会

日時： 2010年7月24日
 場所： キャンパスプラザ京都（京都）
 講演タイトル：「ヨーロッパにおける言語政策の最近の動向」（海外の外国語教育研究会企画特別シンポジウム）
 参加者： 54名

・第2回講演会

日時： 2010年10月2日
 場所： 神戸国際会館（兵庫）
 講演タイトル：「『自律学習』を目指した教材開発研究」（教材開発研究会企画特別シンポジウム）
 参加者： 27名

・第3回講演会

日時： 2011年3月12日

2. 支部紀要、支部ニューズレター等の出版物の刊行

(1) 関西支部紀要の刊行

『JACET Kansai Journal（JACET関西支部紀要）』
 13号
 発行日： 2011年3月31日
 内容： 招待論文、研究論文、実践論文の3つの分野
 規模： 708冊

(2) 関西支部ニューズレターの発行

JACET Kansai Newsletter No. 52; 53; 54; 55
 発行日： 2010年4月1日；5月29日；7月26日；10月24日
 規模： 各660部
 内容： 支部長等巻頭言、支部大会報告、講演会報告、研究会報告、委員会報告、その他英語教育関連事項

3. その他

(1) 支部総会の開催

・2010年度 関西支部総会

日時： 2010年6月19日
 場所： 同志社女子大学
 目的： 支部活動の基盤的問題についての討議・決定・承認；支部活動の最新の状況についての会員への報告
 対象： 支部会員

内容： 平成22年度の人事案、予算案、事業案の審議ほか

(2) 支部役員会の開催

・2010年度 関西支部役員会（第1～3回）

日時： 2010年7月24日；10月2日；2011年3月12日
 場所： キャンパスプラザ京都、神戸国際会館、関西学院大学大阪梅田キャンパス
 目的： 支部運営に関わる諸般の問題について

の検討・審議・決定

対象： 支部役員

内容： 予算案検討、人事案検討、事業案検討、講演会等企画；予算執行に関する申し合わせ、支部大会活性化案、紀要規定、その他

II. 2011年度の活動予定

1. 支部大会、支部講演会等の開催

(1) 支部大会の開催

- ・2011年度 関西支部大会（40周年記念大会）
日時： 2011年11月27日（日）
場所： 武庫川女子大学中央キャンパス（予定）
テーマ： 「大学英語教育の新たな地平へ——JACET関西支部40周年——」
※例年、春季と秋季の2回行っていた支部大会ですが、今年度は秋に40周年記念大会として開催致します。海外からの招聘講師による講演会も計画されており、より規模の大きい大会になります。関西地区の先生方はもちろん、他地区の先生方におかれましても是非お運び下さい。

(2) 支部講演会の開催

- ・第1回講演会（招聘講師による講演会）
日時： 2011年6月18日（土）
15:30～17:00（予定）
場所： 同志社大学今出川キャンパス（予定）
講演タイトル： 「Brain-imagingと英語教育研究—NIRSを使った読解研究を中心として」（竹内 理；関西大）、「日本人英語学習者によるL1処理とL2処理：MRI実験の知見から」（石川慎一郎；神戸大）
- ・第2回講演会（ライティング指導研究会企画特別シンポジウム）
日時： 2011年10月1日（土）（予定）
場所： 神戸国際会館（予定）
講師・講演タイトル： 未定
- ・第3回講演会（リスニング研究会企画特別シンポジウム）
日時： 2012年3月3日（土）（予定）
場所： 関西学院大学大阪梅田キャンパス（予定）
講師・講演タイトル： 未定

2. 支部紀要、支部ニューズレター等の出版物の刊行

(1) 関西支部紀要の刊行

『JACET Kansai Journal（JACET関西支部紀要）』
14号
発行日： 2012年3月31日
内容： 研究論文、実践論文、研究ノートの3つの分野
規模： 約700冊（予定）

(2) 関西支部ニューズレターの刊行

JACET Kansai Newsletter No. 56; 57; 58; 59
発行日： 2011年4月8日（発行済）；5月19日；7月26日；10月24日
規模： 各660部（予定）
内容： 支部長等巻頭言、支部大会報告、研究会報告、委員会報告、その他英語教育関連事項

3. その他

(1) 支部総会の開催

- ・2011年度 関西支部総会
日時： 2011年6月18日（土）
場所： 同志社大学今出川キャンパス
目的： 支部紀要刊行改訂、支部規約定款改訂、今後の支部長選出要領改訂の方向性の承認ならびに、平成23年度事業計画報告など
対象： 支部会員

(2) 支部臨時総会の開催

- ・2011年度 関西支部臨時総会
日時： 2011年11月27日（日）
場所： 武庫川女子大学中央キャンパス
目的： 次期支部長・副支部長の承認など
対象： 支部会員

(3) 支部役員会の開催

- ・2011年度 関西支部役員会
日時： 6月18日（土）；10月1日（土）、2012年3月（未定）
場所： 同志社大学今出川キャンパス；神戸国際会館；関西学院大学大阪梅田キャンパス（予定）
目的： 支部活動方針と内容の検討と決定
対象： 支部役員
内容： 予算執行に関する申し合わせ、支部大会活性化案、紀要規定、支部長選挙、その他
(生馬裕子・大阪教育大学)

〈中部支部〉

2011年2月より2011年5月までの活動報告

1. 役員会

第9回役員会

日時：2011年2月26日（土）12:30～13:50

場所：中部大学名古屋キャンパス6F大ホール

議題：

1. 2011年度中部支部大会シンポジウム講師の交代について
2. 中部支部人事案・社員補充について
3. 2012年度全国大会講演講師について、他

第10回役員会

日時：2011年3月12日（土）14:00～16:00

場所：中京大学 センタービル7階07D

議題：

1. 2011年度中部支部大会研究発表について
2. 2012年度全国大会の大会要旨について
3. 2010年度定例研究会について（総括）、他

第1回役員会

日時：2011年4月9日（土）14:00～16:00

場所：名城大学 天白キャンパス N234会議室

議題：

1. 2011年度中部支部大会について（プログラム作成・会場下見他）
2. 中部支部ニューズレター26号発行について
3. 2012年度全国大会について、他

第2回役員会

日時：2011年5月7日（土）13:30～16:00

場所：中京大学 センタービル7階07D

議題：

1. 2011年度中部支部大会について（プログラム確認他）
2. 2012年度全国大会講演講師について
3. 2011年度臨時支部総会について
4. 2011年度中部支部事業計画・予算確認、他

第3回役員会

日時：2011年6月4日（土）12:05～12:45（予定）

場所：名城大学 天白キャンパス N508会議室

第4回役員会

日時：2011年7月9日（土）14:00～16:00（予定）

場所：中京大学 センタービル7階07D

2. 支部総会

日時：2011年6月4日（土）12:50～13:30（予定）

場所：名城大学 天白キャンパス N301講義室

議題：

1. 2010年度中部支部事業報告・会計収支報告
2. 2011年度中部支部事業計画・予算・人事報告
3. 2011年度臨時支部総会について、他

3. 定例研究会

2010年度2月定例研究会

日時：2011年2月26日（土）14:00～17:50

会場：中部大学名古屋キャンパス

講演会：「SLAに基づく効果的な英語語彙指導法」
望月正道（麗澤大）

研究会発表：ESP研究会

他、個人研究発表3件

4. 支部大会

日時：2011年6月4日（土）10:00～16:55（予定）

会場：名城大学 天白キャンパス

大会テーマ：「大学英語教育における理論と実践の連携」

特別講演：

「コーパス言語学の英語教育への応用—CEFRを中心に」
投野由紀夫（東京外国語大大学院）

シンポジウム：

「Biolinguisticsとしての生成文法と英語教育」
鈴木達也（南山大）

「インプットをアウトプットにつなぐシャドーイング：理論と実践の連携」
門田修平（関西学院大）

「Knowledge transforming のための英語の授業」
三宅なほみ（東京大）

コーディネーター 小宮富子（岡崎女子短期大）
他、研究発表7件、ワークショップ1件

5. その他

- (1) 中部支部ニューズレター26号発行（2011年5月10日）

(2) 中部支部ニューズレター 27号発行 (2011年12月20日予定)

(3) 『中部支部紀要』第9号発行 (2011年12月20日予定)

(石川有香・名古屋工業大学)

月例研究会の詳細は関東支部HP上に掲載されますので、そちらをご覧ください。

(JACET関東支部URL: <http://www.jacet-kanto.org/>)

(上田倫史・駒澤大学)

〈関東支部〉

1. 関東支部 支部大会 第5回大会

大会テーマ『Communicative Language Teaching Revisited: Our Successes and Failures』

日程: 6月26日 10:00 ~ 18:00

会場: 大東文化大学 板橋キャンパス

2. 支部総会日程

第1回: 6月26日 (2011年度事業計画について、支部長選挙について)

場所: 大東文化大学 板橋キャンパス

第2回: 12月17日 (土) (2012年度事業計画について、支部長選挙結果報告)

場所: 早稲田大学

3. 2011年度支部合同会議日程予定

第1回 4月15日 (土) (場所: 早稲田大学)

第2回 7月15日 (土) (場所: 早稲田大学)

第3回 10月15日 (土) (場所: 早稲田大学)

第4回 11月19日 (土) (場所: 早稲田大学)

第5回 2012年1月21日 (土) (場所: 早稲田大学)

4. 人事

新研究企画委員

大和田和治氏、大矢政徳氏が新研究企画委員として承認された。

5. 研究会活動

月例研究会 2011年度活動予定

第1回月例研究会

題目: Task-based language teaching and focus on form

発表者: 和泉伸一 (上智大外国語学部)

日時: 2011年5月14日 (土) 15:00 ~ 17:30

共催: 横浜国立大学・JACET関東支部月例委員会

場所: 横浜国立大学みなとみらいキャンパス (横浜ランドマークタワー 18階)

*6月以降にも月例研究会は企画されております。

〈東北支部〉

1. 2010年度活動報告

(1) 東北支部総会・例会・役員会

全国大会の開催に伴い、支部大会は実施されなかった。

・4月東北支部役員会

日時: 4月3日 (土) 12:00 ~ 13:00

場所: 仙台市民会館 第6会議室

審議事項: 1 2009年度支部決算・2010年度予算案について 2 2010年度東北支部役員・支部推薦社員について 3 2010年度支部活動計画について 4 その他

・7月東北支部役員会および東北支部総会

日時: 7月17日 (土) 13:00 ~ 14:00

場所: エル・ソーラ仙台 研修室2

審議事項: 1 11月支部役員会・例会について 2 『JACET東北支部通信』No.37について 3 その他

・10月東北支部役員会

日時: 10月16日 (土) 12:00 ~ 16:00

場所: エル・ソーラ仙台 研修室1

審議事項: 1 2011年度事業計画案について

2 「JACET東北支部通信 No.37」について 3 2010年9月の全国大会報告書について 4 JACET賞委員会について 5 その他

・11月東北支部役員会および11月東北支部例会

日時: 11月27日 (土) 12:00 ~ 17:00

場所: 仙台市民会館第6会議室

審議事項: 会長の挨拶・報告、全国大会と次年度役員について

例会特別講演: 神保 尚武 (早稲田大) 「英語教員の研修と評価の新しい枠組みを求めて—教育委員会への調査結果に基づいて—」

例会研究発表: 千葉 克裕 (桜の聖母短大) 「第2言語学習者のメンタルレキシコン—脳機能画像法による検証とその課題—」、金子 淳 (会津大短大部) 「『iPod Touch』を活用した英語教育の可能性」

(2) 全国大会実行委員会

東北支部がJACET全国大会（於 宮城大学 大和キャンパス）を担当するにあたり、全国大会実行委員会およびJACET賞選考担当委員会が以下のように実施された。

全国大会実行委員会：第1回 4月3日（土）、
第2回 4月24日（土）、第3回 7月3日（土）、
第4回 7月17日（土）、第5回 8月8日（日）、
第6回 8月31日（火）、第7回 9月6日（月）、
全国大会期間9月7日（火）—9月9日（木）、
第8回 10月16日（土）

JACET賞選考担当委員会：第1回 2009年
12月5日（土）、第2回 4月3日（土）、第
3回 4月24日（土）、第4回 7月3日（土）、
第5回 7月17日（土）、第6回 8月8日（日）

(3) 支部の出版物について

『JACET東北支部通信』No. 37が2011年3月に発行された。

2. 2011年度活動報告および計画

(1) 活動報告

東北支部臨時役員会・JACET賞選考委員会

日時：5月7日（土）

場所：ホテルメトロポリタン仙台

審議事項：支部運営に関する議題を審議した。

(2) 行事計画

東北支部大会・総会・例会・役員会を以下のように計画している。

・東北支部大会

日時：12月4日（日）

場所：仙台市民会館（予定）

内容：ワークショップと研究発表が予定されている。

・東北支部総会

日時：7月2日（土）

場所：仙台市民会館（予定）

審議事項：審議内容として23年度活動計画、人事案、22年度活動報告、支部会計報告などを予定している。

・東北支部役員会

日時：7月2日（土）

場所：仙台市民会館（予定）

審議事項：支部運営に関する議題の審議を予定している。

・東北支部役員会

日時：12月4日（日）

場所：仙台市民会館（予定）

審議事項：支部運営に関する議題の審議を予定している。

(3) 出版計画

支部の発行物として、*TOHOKU TEFL*（JACET東北支部紀要）Vol. 4と『JACET東北支部通信』No. 38を予定している。いずれも2012年3月の発行を予定している。

（日本赤十字秋田看護大学・廣渡太郎、
仙台高専・岡崎久美子）

〈北海道支部〉

1. 研究会の開催

a) 2010年度第3回研究会

日時：2010年12月23日（木）13:00～15:00

場所：北海道大学

研究発表1：「コア・ミーニングが前置詞の選択に与える効果について：in、on、at、byに焦点を当てて」（三ツ木真実・北海道大院）

研究発表2：「How EFL Student Evaluation of Activities Reflect the COLT Observation Scheme?」（Classroom-Centered Research研究会（代表：横山吉樹・北海道教育大札幌校））

b) 2010年度第4回研究会

日時：2011年3月5日（土）14:00～15:15

場所：藤女子大学

研究発表1：「Teacher Identity Shift and Building Rapport with Students in Classroom Interaction」（佐藤亜美・小樽商科大院）

研究発表2「Building a Bridge：トロント補習校における日英バイリンガル作文調査」（佐野愛子・札幌藻岩高）

c) 2011年度第1回研究会

日時：2011年6月4日（土）13:30～14:30

場所：藤女子大学

研究発表：「What is the JET Program Really Doing?：The Research on the Roles of Teachers in Hokkaido」（中津川雅宣・小樽商科大）

実践報告：「ピックアップディベート：英語の授業は英語ですべき」（河合靖：北海道大）

2. 支部役員会の開催

a) 2010年度第3回役員会

日時：2011年3月5日(土) 15:30～17:00

場所：藤女子大学

報告：支部長報告、幹事報告、各種委員会報告

議題：人事案変更について、支部大会について、

支部研究会について、その他

b) 2011年度第1回役員会

日時：2010年6月4日(土) 15:00～16:30

場所：藤女子大学

議題：支部大会役割分担について、2012年度事

業計画について、支部長・社員選挙について、

その他

3. 紀要の発行

Research Bulletin of English Teaching 第8号

2011年3月15日発行

支部ニューズレター 2011年3月 オンライン

(支部ホームページ上)にて公開

4. 今後の予定

大学英語教育学会(JACET)北海道支部2011年
度(第25回)大会

日時：2011年7月9日(土) 12:30～17:30

場所：北海道大学 情報教育館3階多目的講義室

総会、研究発表、講演：「仮題：大学レベルの英

文法指導」(岡田伸夫・大阪大)、シンポジウム

「文法指導に関するテーマ」

(尾田智彦・札幌大学)

創立50周年記念寄付事業報告

50周年記念寄付事業委員会

2010年5月より開始しました創立50周年記念
寄付事業に、たくさんのご協力を賜り、感謝いた
します。2011年5月19日現在、ご寄付の総額は
4,435,000円(賛助会員9社、個人会員141名(内
2名は1組))となりました。ご寄付いただきました
皆さまのご芳名を以下の通り、ご報告いたしま
す。

ご寄付一覧 (*1口5,000円 ご芳名は敬称略、
口数毎のA-Z順)

【賛助会員】

200口：財団法人日本英語検定協会(1社)

100口：株式会社旺文社(1社)

10口：株式会社アルク教育社、株式会社大修館
書店(2社)

5口：株式会社授業学研究所(1社)

2口：株式会社溪水社、株式会社南雲堂、リー
ベル出版(3社)

1口：オックスフォード大学出版局株式会社(1
社)

【個人会員】

50口：神保 尚武(1名)

30口：森住 衛、山内 ひさ子(2名)

20口：原田 園子、羽鳥 博愛、國吉 丈夫、
松岡 博信、岡田 伸夫、寺内 一(6名)

14口：芝垣 茂、山岸 信義(2名)

10口：木村 松雄、小池 生夫、小宮 富子、
中野 美知子、西田 正、奥津 文夫、
尾関 直子、鈴木 千鶴子、高梨 庸雄
(9名)

6口：今村 洋美、木村 友保、見上 晃、渡
辺 敦子(4名)

5口：小林 美代子、松山 正男(2名)

4口：石田 雅近、石川 慎一郎・有香、小嶋
英夫、浪田 克之介、大谷 泰照(6
名(内1組は連名))

3口：河内山 晶子、清水 明子(2名)

2口：浅川 和也、藤田 孝、久村 研、堀口
貫治、伊部 哲、井門 義男、石川
達朗、加藤 裕子、加藤 忠明、川口

格昭、河合 靖、川成 美香、木下 正

義、古志 溢子、倉橋 洋子、南出 康

世、三宅 美鈴、水野 晶子、水島 孝司、

村田 久美子、長尾 知子、名本 幹雄、

西垣 知佳子、西堀 ゆり、小栗 裕子、

岡田 妙、大森 裕實、大須賀 直子、

齋藤 安以子、佐野 富士子、笹島 茂、

島村 東世子、田口 悦男、高橋 貞雄、

高橋 里美、高井 收、武久 文代、武

井 俊詳、田中 春美、津田 早苗(40

名)

1口：安間 一雄、新井 良夫、荒谷 陽子、

浅羽 亮一、東 眞須美、藤岡 千伊奈、

藤田 玲子、福智 佳代子、福田 昇八、

後藤 隆浩、橋内 武、林 千代、日野

信行、蛭町 篤子、ホーランド 萬里子、
今村 泰子、石井 和仁、伊藤 克敏、
伊藤 泰子、井東 廉介、岩井 千秋、
可知 れい子、金岡 正夫、金子 朝子、
川越 栄子、小山 尚史、熊部 尚文、
草薙 優加、牧 かずみ、増山 みどり、
松浦 直子、Miller, Jeffrey Charles、村
上 博子、長江 宏、内藤 永、中田
清一、中村 博生、Ng Chin Leong、
Patrick、丹羽 義信、大井 麗子、岡田
礼子、沖田 知子、小那覇 洋子、大
藪 修一、Ruelius, Joseph T.、佐々木
みゆき、佐藤 明可、佐藤 雄大、澁谷
良穂、志水 俊広、新村 知子、新貝
フランスス、塩入 澈、須藤 淳、須
藤 路子、杉橋 朝子、高橋 留美、田
中 英史、田中 典子、富田 かおる、
土屋 麻衣子、辻田 麻里、上野 之江、
梅咲 敦子、八木 克正、山本 圭子、
吉田 真理子 (67名)

大学英語教育学会創立50周年記念 国際大会実行委員会より

JACET50 (大学英語教育学会創立 50周年記念国際大会)へきんしゃい!

「きんしゃい」は博多弁で「どうぞ来てください。歓迎します」の意味です。JACET50の会場となります西南学院大学の会場責任者であり同大会の実行委員長として、皆様のお越しを、しかもお誘い合わせてのご参加を願っております。

博多と言えば日本の代表的な「食」の都市。特に魚介の博多はきっと食通の皆様にも強く訴えかけることでしょう。

ひょっとしたら日本一(世界一かも?)の交通至便と言える会場の西南学院大学は、空からなら福岡(国際)空港、鉄道なら新幹線でJR博多駅から、それぞれ地下鉄で20分と15分の西新(にしじん)駅下車徒歩5分なのです。ホームページ(<http://www.seinan-gu.ac.jp/>)をお訪ねくだされば、会場の概要をご覧いただけます。北へ歩けば

15分余りで博多湾を望むビーチやソフトバンクのドーム球場が。

昼はアカデミックな学会で、夜は地下鉄で10分余りで天神・中州そしてこの3月にできたばかりのJR博多駅ビルの巨大モールで歓楽。2011年のJACET50の記念大会は、参加なさった皆様にとっても思い出深い大会となりましょう。きんしゃい!

JACET50・大学英語教育学会創立50周年記念
国際大会実行委員長
武井 俊詳(西南学院大学)



西南学院大学博物館(旧本館)

事務局だより

JACET事務局では会員の皆様の学会活動をサポートするため、各種事務を行っております。今年度もよろしくお願いたします。お問い合わせ等はメールまたは電話(平日10時から17時)で対応しております。円滑な運営のために、以下の点にご協力をお願いいたします。

1. 「年会費」の支払い：毎年6月末日までに年会費のお支払いをお願いしておりますが、今年も同様に早い時期でのお支払いをお願いいたします。4月下旬に皆様にお送りしました郵便局の「払込取扱票」をご使用ください。尚、同用紙を紛失なさった方はJACET事務局にご連絡ください。当該年度の会費未納者の方へは会費が納入されるまで事務局からの発送物を停止させていただいておりますが、今年度も9月第3週に「督促状」の発送、その後2週間以内に納入されていない場合は発送の停止を行うこととなります。また、今年度中に

お支払いがない場合は会員資格を失いますのでご注意ください。

2. 会員登録情報（連絡先・所属・Eメールアドレスなど）の変更届： 会員登録情報の変更は、以下の方法で必ずJACET事務局会員管理係まで、Eメール、FAXまたは郵便でご連絡ください。

①件名に「会員登録情報変更」と明記。 ②氏名（会員番号）を必ず明記の上、変更する項目名と変更内容をお書き下さい。特にご住所が変更になった場合、所属支部の変更のご希望も必ずご連絡ください。

会員メーリングリストアドレス (news@jacet.org) への返信は受け付けておりませんので、必ず、JACET事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp) へご連絡ください。

3. 『2011年度大学英語教育学会 (JACET) 名簿』記載情報： 2011年度も会員名簿を作成いたしますが、個人情報保護の観点から取扱には十分にご注意くださいますようお願いいたします。会員の皆様の記載情報は原則昨年度版と同じ、氏名（会員番号）・NAME・〒・連絡先住所・連絡先TEL・連絡先FAX・Eメール・勤務先・勤務先TEL・専門分野（①英語教育学、②英語・言語学、③応用言語学、④英米文学、⑤その他）といたします。今年度の名簿記載項目の変更を希望される場合には、以下の方法で8月31日（水）まで（締め切り厳守）にJACET事務局会員管理係まで、Eメール、FAXまたは郵便でご連絡ください。

①件名に「名簿記載項目変更」と明記。 ②氏名（会員番号）を明記の上、名簿に記載したくない項目名のみを書き「掲載を希望しない」とお書き下さい。 ③今年度から新たに掲載を希望する項目がある場合にはその項目名と「掲載を希望する」とお書き下さい

4. 会員番号： 会員番号は7桁の数字で、郵送時の封筒の氏名の下と、『2010年度大学英語教育学会 (JACET) 会員名簿』に記してあります。

5. JACET刊行物の販売： JACETで刊行された出版物は、書籍代前払い、発送手数料1冊150円にてお分けしております。以下の方法でお求め下さい。 ①JACET本部事務局へEメールまたはFAXでお申込みください。 ②氏名・Eメールア

ドレス (JACETからの連絡方法)・書籍名・冊数・郵送先住所を明記して下さい。 ③在庫を確認してJACET事務局から金額等をご連絡いたします。

④連絡を受けてから郵便振替で送金して下さい。(書名・希望冊数を「通信欄」に、送付先住所氏名を「払込人住所氏名欄」に必ずご記入下さい。) 口座番号：00110-7-61932、加入者名：社団法人大学英語教育学会。

JACET事務局 Eメール jacet@zb3.so-net.ne.jp
FAX 03-3268-9695
(事務局長 荒川明子)

『JACET通信』記事の募集

『JACET通信』では、会員の方から記事を募集いたします。内容は、大学の英語教育に関連していれば、理論的なことから実践的なことまで幅広く受け入れます。字数は、日本語の場合は1500字以上3000字以内、英語の場合は700語以上1200語以内です。参考文献の記載はAPA方式(第6版)を使用してください。原稿は、JACET広報通信委員会宛て(jacetnews@gmail.com)に添付ファイルでご提出ください。次回の締め切りは2011年7月31日です。なお、記事掲載の採否については原稿受領後約2カ月以内に通知いたします。会員の皆様からの奮ってのご投稿をお待ちしております。

CALL for submissions

The JACET newsletter is seeking contributions (about 700~1000 words) from members for upcoming publications. Papers should focus on EFL teaching issues, methods, practices or successful lesson plans in Japanese post-secondary educational institutions. References should be cited in APA format (the 6th edition). Please send your article as an email attachment to the JACET Newsletter Committee (jacetnews@gmail.com). The deadline for submissions will be July 31, 2011. You will be informed as to the status of your submission within about two months from the time we receive it.

お知らせ

本学会特別顧問の小池生夫先生がこのたび、平成23年春の叙勲において瑞宝中綬章を授与されました。心からお慶び申し上げます。

編集後記

東日本大震災から3カ月以上が経ちましたが、被災地では依然困難な状況が続いています。被災された会員の方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたしております。

今号では、日本語教育学会の西郡仁朗先生にご寄稿をいただきました。心より感謝申し上げます。関西大学の山本英一先生にも、お忙しい中記事をご執筆いただきました。厚く御礼申し上げます。

また、今号から『公募記事コーナー』を開始しました。会員の皆様のご応募をお待ちしております。

編集委員

理事 尾関直子・明治大学
委員長 大須賀直子・明治大学
副委員長 田口悦男・大東文化大学
遠藤雪枝・清泉女子大学
Robert Hamilton・明治大学
Maggie Lieb・明治大学

2011年7月1日発行

発行者 社団法人 大学英語教育学会 (JACET)
代表者 神保 尚武
発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55
電話 (03) 3268-9686
FAX (03) 3268-9695
<http://www.jacet.org/>
印刷所 〒252-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12
有限会社 タナカ企画
電話 (046) 251-5775
